

トピックス

○管内でつつが虫病の発生が続いています。

つつが虫病の報告が、管内では47週2件、49週4件、50週2件と続いています。（12月15日現在、管外医療機関からの届出含む）例年、秋以降患者の発生が増加しますので、山林に入ったり、田畑で作業をしたりする際には、肌の露出が少ない服装にする、忌避剤を適切に使用する、地面には直接座らずレジャーシート等を敷いて座るなどの感染対策をお願いします。

千葉県衛生研究所作成のリーフレットを添付していますので、予防対策に御活用ください。

○感染性胃腸炎の集団発生の予防について

今後、冬場における患者数の増加により、保育園、幼稚園、社会福祉施設等での集団発生が増加するおそれがあります。下記ホームページも参考にいただき、予防対策の確認等にお役立てください。

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/norovirus/>

（厚生労働省ホームページ、感染性胃腸炎（特にノロウイルス）について）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/gast/index.html>

（千葉県ホームページ、ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎にご注意!）

なお、過去5週の管内の定点医療機関からの感染性胃腸炎の報告数は、45週（11/7～11/13）、46週（11/14～11/20）、48週（11/28～12/4）のそれぞれ1件でした。直近49週（12/5～12/11）は0件でした。

○千葉県オンライン診療センターの設置について

千葉県では、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行により、多くの発熱患者が生じる可能性があることから、発熱外来のひっ迫を回避するため、「千葉県オンライン診療センター」を開設しました。12月5日から、発熱患者のうち、新型コロナウイルス抗原定性検査キットの自己検査の結果が陰性となった重症化リスクが低い方等を対象にオンライン診療を行っています。

なお、12月19日（月）から対象者が拡大される予定です。詳細は、下記ホームページを御確認ください。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/kansenshou/ncov/online-center.html>

（千葉県ホームページ、千葉県オンライン診療センターの設置について）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/press/2022/online-center1212.html>

（千葉県ホームページ、千葉県オンライン診療センターの対象者の拡大について）

○抗原定性検査キットの配布について

「千葉県新型コロナウイルス感染症検査キット配付センター」では、現在の感染状況等を踏まえ、12月5日（月曜日）から、重症化リスクの低い軽症者を対象に、抗原定性検査キット配布の申込み受付を再開しています。配付対象者の要件等については、下記ホームページを御確認ください。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/kenkoufukushi/test-distribute.html>

（千葉県ホームページ、抗原定性検査キットの配付について）

○社会福祉施設等における感染症等対策研修会の開催（再掲）

県健康福祉政策課より、研修会の開催について通知がありました。12月1日（木）より動画配信されていますので、ぜひ受講くださるようお願いいたします。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/kansenshou/syakaifukushishisetsukennsyuu.html>

（千葉県ホームページ、社会福祉施設等における感染症等対策研修会）

◎千葉県発熱相談コールセンター

（電話番号） 0570-200-139

（対応時間） 24時間（土日・祝日を含む）

◎夷隅保健所（夷隅健康福祉センター）での相談

（電話番号） 0470-73-0145

（対応時間） 平日 8:30～17:00

1 新型コロナウイルス感染症について

＜千葉県ホームページより＞

1) 千葉県内で確認された感染者数 (令和4年12月13日現在)

累計感染者数	入院中	重症	死亡
1,154,989	1,964	16	2,811

※9月26日に開始した発生届の限定化に伴い、感染者状況(現在の感染者数、自宅療養者数等の一部データは公開を終了しています。

2) PCR検査実施状況 (令和4年12月10日現在)

累積検査実施人数 (陰性化確認検査を除く)	直近1週間の検査人数
3,279,837	46,800

※県衛生研究所並びに保健所、医療機関及び民間検査機関等(千葉市、船橋市、柏市含む)における実施分の合計です。

※検査人数はPCR検査及び抗原検査の結果が含まれます。

※速報値のため、後日修正となる可能性があります。

2 2022年の管内の感染症発生状況

管内の医療機関からは、2類感染症は、14週、23週に結核、4類感染症は、24週、47週、49週につつが虫病、35週に日本紅斑熱、5類感染症は、4週、30週に梅毒、21週に水痘、46週にカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の発生届がありました。

また、4類感染症については、管外の医療機関からの届け出を含め計12件の届け出がありました。

● 管内の全数把握感染症情報 ● <類別・疾患別集計表>

区 分	累計(2022年 発生分) ※49週まで
1類感染症	0
2類感染症	2(結核)
3類感染症	0
4類感染症 (※管内居住の患者数)	11(つつが虫病7、日本紅斑熱2 レジオネラ症1、デング熱1)
5類感染症 (※管内医療機関からの届出数)	4(梅毒2、水痘1、カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感染症1)

疾患名 (インフルエンザ及び小児科定点疾患)	2022年 1週~49週 の累計	直近5週の届出数				
		45週	46週	47週	48週	49週
1 インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等感染症を除く)	6	0	2	2	1	0
2 RSウイルス感染症	2	0	0	0	0	0
3 咽頭結膜熱	3	0	0	0	0	0
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0	0	0	0	0
5 感染性胃腸炎	15	1	1	0	1	0
6 水痘	2	0	0	0	0	0
7 手足口病	7	0	0	0	0	0
8 伝染性紅斑	0	0	0	0	0	0
9 突発性発しん	2	0	0	0	0	0
10 ヘルパンギーナ	7	0	0	0	0	0
11 流行性耳下腺炎	3	0	0	0	0	0

● 管内定点把握対象疾患 ●

<参考> 夷隅健康福祉センター管内の定点医療機関は、

インフルエンザ定点 : 5 医療機関

小児科定点 : 3 医療機関

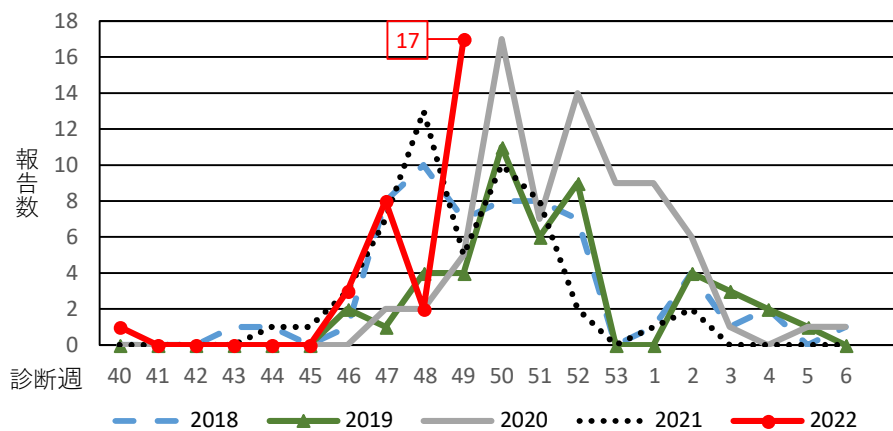
の協力を得ています。

【今週の注目疾患】(千葉県感染症情報センター—2022年46週、49週より)

《つつが虫病》

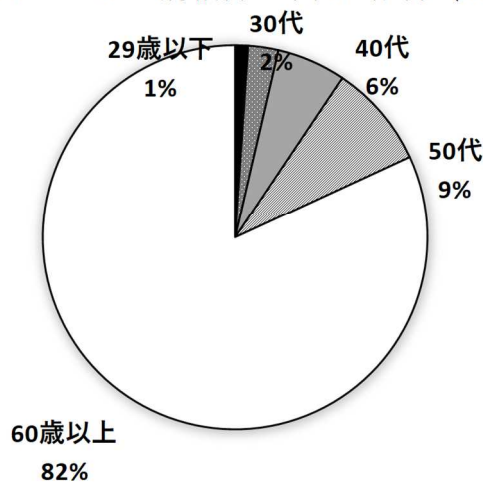
2022年第49週に県内医療機関からつつが虫病の報告が17例あり、前週の2例から急増した。2022年の年間累計報告数は36例となり、第46週(11月中旬)から毎週患者が報告されている。県内のつつが虫病の発生動向には季節性が見られており、例年第44週頃(10月下旬～11月上旬頃)から翌第6週頃(1月下旬～2月上旬頃)にかけて報告が多く見られる(図1)。つつが虫病の流行シーズンは年明けまで続くため、引き続き感染対策を十分に行う必要がある。

図1：第40週から翌第6週までに県内医療機関から報告のあったつつが虫病報告数(2018年～2022年)



2018年から2022年第49週までに県内医療機関から276例のつつが虫病の報告があった。年間累計報告数は2020年以降増加傾向にあり、2021年は過去10年間で最多報告数となった¹⁾。性別では男性166例(60%)、女性110例(40%)で男性が多かった。60代以上が全体の8割以上を占めるが、一方で20代や30代の症例報告も少数ながらあった(図2)。

図2：2018年から2022年第49週までに報告のあった県内つつが虫病報告の年代別割合(n=276)



つつが虫病は、病原体 *Orientia tsutsugamushi* を保有するツツガムシがヒトを刺咬・吸着して感染する。5～14日の潜伏期間を経て、頭痛、関節痛などをともなって突然の発熱をもって発症する。発疹は体幹から四肢に広がる傾向があり、ツツガムシに刺された部位に特徴的な直径1cm程度の黒色痂痂を高率に見出す国内常在のダニ媒介のリケッチア感染症である。臨床的には、マダニによる日本紅斑熱との鑑別が難しく、届出には実験室診断での鑑別、確定が必要となる²⁾。

ツツガムシは野山に生息しているダニ類で、幼虫期の体長が0.2～0.3mmであり、肉眼で確認することは難しい小さなダニである。主な患者の発生地域は千葉県南部であるが、北部地域等でも患者の発生は見られるため、県内全域で注意が必要である³⁾。

本症の予防に利用可能なワクチンはなく、ダニの刺咬を防ぐことが最も重要となる。具体的には、農作業や山野などに入る時には長袖・長ズボンを着用して肌の露出を少なくすること、ダニ忌避剤を適切に使用すること、休憩する時は、地面に直接座らずレジャーシート等を敷いて座ること、帰宅したらすぐに着替え、着ていた服を洗濯することなどが感染対策となる。また、疑わしい症状等があった場合には、早期に医療機関を受診することが重要である^{3,4)}。

■参考

1)千葉県衛生研究所:千葉県結核・感染症週報 2022 年第 41 週

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/c202241.pdf>

2)国立感染症研究所:IASR Vol.43 No.8 つつが虫病

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/tsutsugamushi-m/tsutsugamushi-iasrtpc/11415-510t.html>

3)千葉県衛生研究所:つつが虫病に注意!

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/eiseikenkyuu/virus/documents/tsutsugamushi.pdf>

4)千葉県:ダニ媒介感染症について

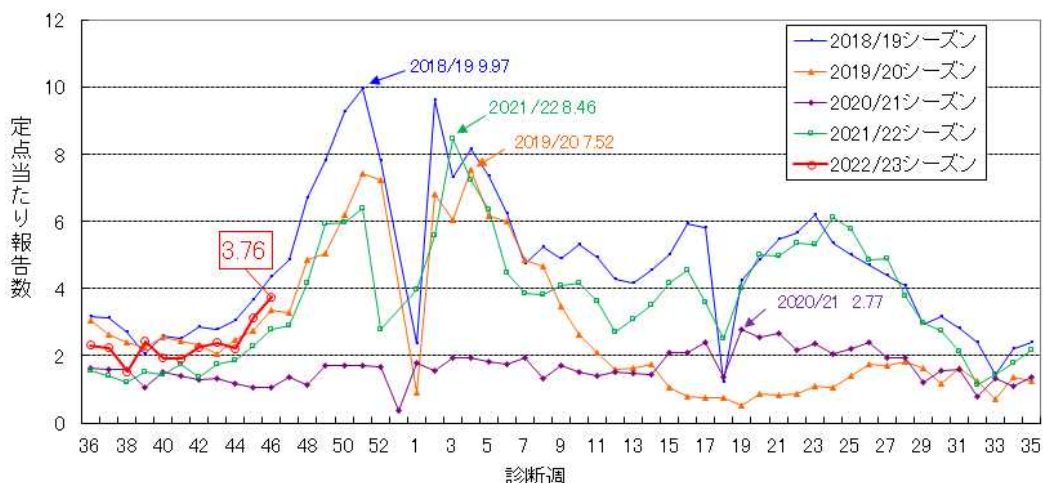
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/tick.html>

《感染性胃腸炎》

2022 年第 46 週に県内定点医療機関から報告された感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、前週(2022 年第 45 週)の 3.14(人)から増加し、3.76(人)となった。今週報告された計 496 例のうち、年齢群別では 1 歳が 78 例(16%)で最も多く、次いで 2 歳が 77 例(16%)、3 歳が 66 例(13%)であった。保健所管内別では、印旛 8.94(人)、松戸 5.73(人)、柏市 4.22(人)からの報告が多かった。

過去 5 年間のシーズンごとに定点当たり報告数を比較すると、新型コロナウイルス感染症の流行が始まった 2020/21 シーズンは低調であったが、2021/22 シーズンは新型コロナウイルス感染症流行前の 2018/19 シーズンとほぼ同様に推移し、2022/23 シーズンも例年と同様に推移している。また、今シーズンは保育園のサポウイルスによる感染性胃腸炎集団発生事例¹⁾など県内で複数の感染性胃腸炎集団発生事例が報告されている。感染性胃腸炎は多種多様な病原体の関与が想定され、一定の疫学パターンをとらないことが予想されるが、例年ウイルス性、特にノロウイルスやサポウイルスによる流行が 12 月にピークを形成する²⁾ことから今後の増加が見込まれる。冬に向けて、発生動向を注視していく必要がある(図)。

図：千葉県の流行シーズン別感染性胃腸炎定点当たり報告数



感染性胃腸炎は、ウイルスまたは細菌による感染性胃腸炎を包含する症候群であり、多くのウイルス、細菌、寄生虫等が原因病原体となり得る。ウイルス性のもではノロウイルスやサポウイルス、ロタウイルス、腸管アデノウイルスなどがある。細菌性のもでは病原性大腸菌、サルモネラ、カンピロバクターなどがある²⁾。

ノロウイルスとサポウイルスはカリシウイルス科に属する。ともに、ヒト以外の動物に感染せず、培養細胞でも増やすことができない³⁾。ノロウイルス感染症とサポウイルス感染症の症状は同様であり、症状から区別することは困難である。潜伏期間は1~2日間で、吐き気、嘔吐、下痢が主症状であるが、腹痛、頭痛、発熱を伴うこともある。ウイルスは症状が消失した後も、しばらく患者糞便中に排出されるため、二次感染に注意が必要である⁴⁾。

ノロウイルス感染症の感染経路は、主に経口感染である。ノロウイルスに汚染された食品を介した経路と患者の便や嘔吐物などから手指等を介してヒト-ヒト感染する経路が代表的なものとしてあげられる。また、ノロウイルスは乾燥すると容易に空中に漂い、これが口に入って感染することがある⁵⁾。現在ノロウイルスによる感染性胃腸炎に使用可能なワクチンはなく、感染を予防するためには、食品類の十分な加熱、石けんと流水による手洗いの励行、嘔吐物・糞便等の迅速かつ適切な処理(飛散しないようペーパータオル等で静かにふき取る、市販の凝固剤等を使用する等)および次亜塩素酸ナトリウム等による汚染区域の消毒が重要となる。

手指に付着しているノロウイルスを減らす最も有効な方法は石けんと流水による手洗いである。調理や食事の提供を行う前、食事の前、トイレの後は必ず手洗いを行う。また、手袋をしている場合であっても、嘔吐物・糞便等の処理やオムツ交換を行った後は必ず手洗いを行うことが重要である⁵⁾。現在、新型コロナウイルス感染症の感染予防策として、消毒用エタノールによる手指消毒が推奨されているが、ノロウイルスは消毒用エタノールのみでは効果が期待できないことから、石けんと流水を用いた手洗いの代用にはならないことに注意が必要がある。

サポウイルス感染症も、糞口感染によるヒト-ヒト感染、あるいは汚染された食べ物や水による感染があると考えられている。サポウイルスの予防にはノロウイルスと同様に、食品類の十分な加熱、患者の排泄物の適切な処理と手洗いの励行が重要である⁴⁾。

保育園や社会福祉施設などの集団で生活する施設内で、ノロウイルスやサポウイルスによる感染性胃腸炎が発生した場合には、集団感染となることがある。各施設向けのマニュアルやガイドラインを参考に、感染対策に努められたい。

厚生労働省：保育所における感染症対策ガイドライン(2018年改訂版)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/hoiku/index.html

厚生労働省：高齢者介護施設における感染対策マニュアル改訂版(2019年3月)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/ninchi/index_00003.html

■参考

1)千葉県:【サポウイルス】感染症予防のための情報提供について(令和4年11月18日発表)

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2022/saposyudan041118.html>

2)国立感染症研究所:感染性胃腸炎とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/383-intestinal-intro.html>

3)国立感染症研究所:胃腸炎関連カリシウイルス(ノロウイルス、サポウイルス)総論

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/24/286/dj2862.html>

4)内閣府食品安全委員会:サポウイルスの概要

<https://www.fsc.go.jp>

5)厚生労働省:ノロウイルスに関するQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.htm

感染症情報の受信先設定について

日頃、感染症対策の推進に御協力いただきありがとうございます。

【連絡】

登録アドレスの廃止、変更等は連絡願います。

【利用にあたっての注意】

『夷隅感染症情報』の感染症の説明等は主に公的機関の情報を基に作られ、できるだけ最新で正確なものを発信するよう努めておりますが、御利用に際しては、利用機関の責任において御使用ください。また、メールの安全性についても県庁のネットワークシステムの一環として安全性の確保を図っておりますが、受信先におきましてもセキュリティー等の注意をお願いします。

※このアドレスは送信専用です。お問い合わせの際には下記まで御連絡ください。

<配信元>

千葉県夷隅保健所

【お問い合わせ先】

isumiho3@mz.pref.chiba.lg.jp
